

# 地方民紀行鉄

四季折々の花が咲き、SLが走る。  
沿線の恵まれた自然環境を  
活かした秩父鉄道の取り組みは、  
多くの観光客や鉄道ファンを  
魅了している。

## 秩父鉄道



### 赤

銅色の鉄橋や色とりどりの花の中を煙を上げて走り抜けるSLの姿。都心から最も近いSLが走る路線として知られる秩父鉄道沿線では、こうした鉄道ファンならずとも見てみたいと思わせる光景を眼にすることができ。

しかし残念なことに冬季はメンテナンスのためSLの運行はお休み。そこで資料を拝見しに熊谷にある秩父鉄道本社にお邪魔した。

### SLの魅力

秩父鉄道のSLパレオエクスプレスは1988年の「さいたま博」を機に埼玉県内の小学校に保存されていた旧国鉄（JR）の車両を復活させたもの。「パレオエクスプレス」という名称は、約2千万年前に秩父地方に生息していた海獣パレオパラドキシアにちなんで付けられたそうだ。

毎年3月から12月初までの土日祝日を中心に、JRとの乗換駅である熊谷から、終点の三峰口まで8つの停車駅、約57キロ間を一日一往復している。三峰口到着後、整備作業や転車作業などのため50分程度停車するが、この間、作業の様子を駅に隣接する駐車場や車両公園から見学でき、子どもや鉄道ファンに人気らしい。

乗車には普通乗車券に加え、「SL座席指定券」か「SL整理券」が必要になる。販売は乗車日の1カ月前から始まる。「SL整理券」は当日購入も可能だが、ゴールデンウィークや夏休みなど行楽シーズンをはじめ、事前に

終了してしまうことも多いという。東京都心部から1時間程度で乗りに来られるSLの人氣は高い。

楽しみ方は「乗る」だけに限らない。SLが走る姿はそれだけで絵になる光景で、見るだけでも十分楽しめる。秩父鉄道では毎年、写真コンテストを開催しているが、その入賞作品はどれも「絵になる光景」ばかり。コンテストは沿線の風景や祭事を題材とした「観光部門」とパレオエクスプレスを題材とした「SL部門」に分かれ、2009年の第6回コンテストには「観光部門」に130名、「SL部門」に142名の応募があったとのこと。SLには「乗りたい」だけでなく「見たい」「撮りたい」と思わせる魅力があるのだ。

### 花に溢れた沿線

桜や紅葉の下を走るSL、一面の芝桜や梅林……写真コンテストの入賞作品を見ていると、そのほとんどに四季折々の花が写っていることに気が付く。

秩父鉄道の沿線は豊かな自然に恵まれ、花の名所も随所に点在している。有名な秩父の芝桜や長瀬の臘梅（ろうばい）以外にも、さきたま古墳公園の桜、秩父ミューズパークでは季節に応じて一面のアイランドポピーや石楠花などが楽しめる。また車窓からも、桜や紅葉はもちろん、そば畑や菜の花などが眺められる。

広々とした敷地に花が咲き誇っている光景は、都心部ではなかなか望めないこともあって、こうした環境を生かして企画された花め

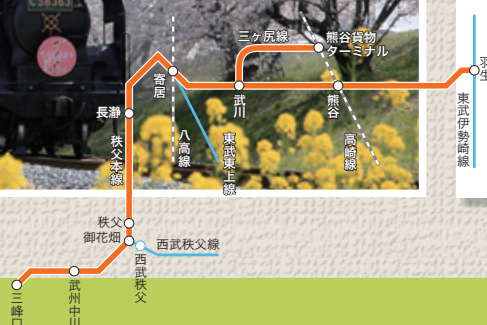


桜の下を走るSL

## 秩父鉄道

### 【ちちぶてつどう】

羽生から三峰口まで、埼玉県北部を東西に全35駅で結ぶ。総延長71.7キロの沿線には長瀬や秩父など人気の観光地を擁する。東京都心から最も近い、SLが走る路線としても人気。





## 宝登山神社



宝登山神社は今年ご鎮座から1900年の節目の年を迎えた



急行ロウバイ号。開花に合わせてヘッドマークを掲出する

ぐりスタンプリヤやフリーハイキングは毎年高評だという。

### 花盛りの宝登山

SLには乗れないが、ちょうど見ごろを迎えたという宝登山の臘梅を見に長瀬へ向かう。熊谷から長瀬までは、臘梅開花時期に合わせてヘッドマークを掲出した「急行ロウバイ号」で40分。長瀬駅を出ると、目の前に宝登山神社の参道が真っ直ぐに伸びている。参道を上り、まずは宝登山神社へお参り。大改修工事が終わったばかりの拝殿は創建当時の姿に復興され、龍や四神などの彫刻の彩色も鮮やか。火防・盗難除けにご利益があるとか。さて、お目当ての臘梅園は宝登山の山頂にある。神社近くのロープウェイがハイキングコース（所要時間約80分）で向かうのだが、今回は乗をしてロープウェイで。標高497メートルとはいえ、山の空気は冷たく澄んでいて、麓よりぐつと寒い。数日前に降った雪もまだ残っていたが、ハイキングコースを登ってきたらしい装備のグループやツアー客など、平日とは思えないほどの人出があった。

山頂のなだらかな斜面に植えられた約2000本の臘梅は1月下旬から2月中旬が見ごろ。遠目に見ると淡い黄色の霞のよう。木々の下に入れば、花の盛りを迎えた臘梅の甘い香りが漂ってくる。臘梅から目を離し、視線を上げて遠くを見れば、秩父の町の向こうに武甲山や両神山も見渡せる。東京近郊と

は思えない見事な眺望だ。

臘梅園の隣には梅百花園が隣接しているが、仕切りがあるわけではなく、視界を遮るものはない。約170品種470本の梅が楽しめる梅百花園の見ごろは2月中旬からとのことだが、ちらほらと咲き始めている梅もあり、淡い黄色の臘梅と紅白の梅の両方を楽しめた。

### 懐かしの電車も走る

長瀬駅に戻り、帰りの電車を待っていると、どこか見覚えのある鮮やかな黄色の電車が走り込んできた。

秩父鉄道では、JRから購入し、自社カラーに塗りなおして使用していた電車の色を、2007年の鉄道博物館の開館を記念して復元。現在、黄色・青・関西色（黄緑）の3色の電車が旧国鉄色のリバイバルカラー号として運行している。黄色はかつて中央線や総武線で利用していた電車の色だった。リバイバルカラー号は運用ダイヤに組み込まれて運行されているため、どの色がいつ走るのかはわからないが、懐かしい電車を喜ぶ乗客も多いようだ。

長瀬から熊谷まで、帰りは普通列車で戻る。遠くに山並みが連なる景色は広々として気持ちが良いが、咲く花々を車窓から楽しめる季節はもう少し先。桜と思いき木々もまだ枝ばかりで、ついさっき見た満開の臘梅が、冬に楽しめる貴重な花だったことを痛感する。SLが走る季節になったらもう一度、今度は生で「絵になる光景」見にこよう。



リバイバルカラー黄



足元には福寿草も



臘梅は下向きに花をつける